

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100027		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホームやまもも		
所在地	徳島県徳島市下町本丁59-26		
自己評価作成日	平成28年10月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症利用者の個性と尊厳の保持、安心の実現を目指して、利用者一人ひとりが地域の一員と成るべき取り組みを重視しています。全職員が個々を理解し、持てる能力に着目した関わりを持ち、本人の意欲や活気が出る為の支援を実施している。家族に対しては、毎月近況報告や季節ごとのやまもも便りを送り、日常生活、心身の状態について報告を行っている。また、状態の変化が有った場合には、その都度家族に連絡している。また、家族を敬老会等の行事にお招きしたり、面会時に随時相談をお受けするなど信頼関係の構築に努めている。更には、毎月認知症カフェを開催し、実践等から培った認知症や認知症予防の運動や手芸等を実施し多くの方のご参加を得ている。その他にも13番札所大日寺の境内にて近所の方や巡礼者に対してお接待を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然豊かな山と田園に囲まれた高台に位置しており、広い敷地内には同一法人の運営する医療機関や他のサービス事業所が併設している。管理者と職員は事業所の理念に沿って、利用者寄り添い一人ひとりの思いを大切に考え、その人らしく安心して日常生活を送ることができるよう取り組んでいる。事業所で進めている認知症カフェは、家族や地域住民に広く浸透しつつある。管理者は地域の中学校に Outreach、認知症サポーター養成講座を実施するなどして、若い世代に向けた認知症の啓発活動にも取り組んでいる。利用者や職員で八十八か所参りの巡礼者へのお接待を行うなどして、地域との関りを大切にしたりした取り組みを行っている。協力医療機関とも密に連携を図っており、迅速で適切な医療の受診へと繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域との繋がりを大切にす」とあり、朝の申し送り時に、理念を復唱し、職員全員が理念を共有し、実践に繋がっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げ、全職員で意識統一を図って取り組んでいる。新規採用職員には、管理者が日頃の支援を通じて理念を伝達するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域の一員であることを常に意識し、お接待を実施したり、地域の小学校の運動会やコミセン祭りに参加し積極的な交流に努めている。	事業所の近隣の地域住民との交流を進めるため、認知症カフェを開設している。大勢の参加者が集っており、地域住民や利用者の楽しみの場となっている。地元のコミセン祭りや運動会にも参加している。十三番札所のお接待を行うなどして、地域との繋がりを積極的に構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを毎月実施し、認知症についての勉強会を実施し、適宜相談にも応じている。また、認知症サポーター養成講座を施設や地域の公民館や中学校で実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績、活動報告、GHやまもも便りについて報告し、参加者からは毎回ご意見をお聴きし、事業に積極的に取り入れています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、日頃の取り組みや活動状況を報告している。利用者も出席しており、外部関係者から様々な意見や要望等を出してもらうなどして活発に意見交換を行っている。出された意見は全職員で共有し、運営面やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、実績報告等で市役所を訪問し信頼関係の構築に努めている。また、運営推進会議に参加頂き、意見を伺いサービス向上に繋がっている。	日頃から管理者は、市担当者と密に連携を図るよう心がけている。各種会議に出席してもらうなどして事業所の取り組みや活動状況を伝えており、相談や助言を得ることのできる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は、法人で毎月実施している「身体拘束委員会」に参加し、内容を職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員間で身体拘束の弊害の認識に努めている。職員は施錠をすることなく、利用者への声かけや見守りを中心とした支援を心がけることで、本人が抑圧感なく自由に暮らすことができるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも高齢者虐待防止法等に関する勉強会を実施し、防止に努めている。他の施設で虐待が有った場合、その事例等を基に分かり易く職員に説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で、成年後見人制度や日常生活自立支援事業について勉強会を実施している。利用者が必要時、使用できる支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時や制度改正時は、十分説明を行っている。ご家族からのご質問等に随時詳しく応えるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の嗜好を調理や外食に反映している。家族同伴昼食会や家族会等において、ご家族より意見をお聴きする機会を設けている。また、面会時、随時ご意見を伺っている。	事業所では、家族との昼食会を開催している。また、家族会等の機会に意見を聞くようにしたり、家族の来訪時には職員から積極的に声かけをしたりすることで話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出された意見や要望は、職員間で話し合って運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティングを月1回以上開催し、職員個々の意見を聴く機会を持ち、代表者に議事録にて報告している。代表者は意見が反映できるように努めている。	管理者は、日頃のケアの場面やミーティング時等に、職員の意見を聞くよう努めている。職員から出された意見や要望、アイデアは、代表者にも伝えており、職員の働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員個々の努力や、職場環境・条件の整備等について代表者に伝えている。代表者は、職場環境の整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や施設内で毎月勉強会を実施している。また、外部研修に行く機会も確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に可能な限り参加し、ネットワークづくりに努めている。認知症介護実践者研修やリーダー研修に参加し、他施設訪問の機会を設け、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係機関より情報を貰い、サービスを導入する段階で、本人の要望等をお聴きし、安心した暮らしを提供できるための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する段階からご家族の要望をお聴きしている。グループホームでのケアの方針を説明し、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族の要望と居宅ケアマネ等からの情報を収集し、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の得意分野を理解し役割を持って頂き、能力が継続できるように職員も必要な支援を行う等、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族同伴昼食会を開き、利用者のご家族と一緒に昼食を食べる機会を設けている。面会時に於いても生活の様子を伝え、必要な支援を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族が行き来できるよう支援している。利用者の要望を伺い、ご家族の協力を得ながら馴染みの場所との関係が継続できる為の支援を行っている。	家族の協力を得たうえで、本人がこれまでに大切にしてきた馴染みの場所や人との関係が途切れることのないよう働きかけている。知人や親族が来訪しやすい雰囲気づくりに配慮し、地元の行事にも積極的に参加できるよう支援するなどして、交友関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の想いや利用者同士の関係を把握し、職員が間に入りながら会話を補助したりレクを用いて、利用者同士の関わりを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても、親しくされていた利用者と一緒に訪問やお見舞いに行くなど、関係の継続に努めるとともに、引き続き相談や支援を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者の想いを大切に、出来る限り意向に沿えるように努めている。	言語による自己表現や意思の疎通が困難な利用者には、日頃の関わりを通じて本人本位の視点に立って意向を把握するようにしている。また、些細な表情の変化やしぐさを見逃すことなく、一人ひとりの思いに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族より詳しい生活歴や利用サービス内容等を伺い、生活されてきた時代背景等を考慮し、支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々のできることに着目し、その力が継続できる支援に努めている。また、一人ひとりの生活リズムを理解するなど、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望や思いをお聴きし、介護計画に反映している。また、体調の変化時等は、専門職等の参加を依頼し、カンファレンスを実施し、介護計画に反映している。	日頃の利用者との関わりを通じて把握した一人ひとりの思いや心身状況を踏まえたうえで、家族の意向や希望を聞いて介護計画書を作成している。職員は介護計画に応じた支援の実施状況を毎日チェックしている。これに併せてモニタリングを行い、介護計画の評価や見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態等は個々の介護記録に記載し、また連絡帳やミーティングにて職員間で情報を共有し、適宜カンファレンスを実施し介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院と通路で結ばれており、利用者の体調の変化が見られた時には、医師の指示を頂いたり、診て頂いている。また、隣接する施設の慰問や行事等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と行事等の情報交換を行い、地域行事に積極的に参加している。また、地域の四国八十八カ所札所に手作り作品を持ち、地域の方や巡礼者に対してお接待を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療を受けている。その他の専門医の受診が必要な時は、ご家族と連絡調整を行い、必要な受診が出来るように支援している。	入居時の段階で、利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認している。なお、協力医療機関の医師を主治医とする場合には同意を得るようにしている。定期的な往診や夜間の緊急対応も迅速に行っており、訪問看護とも提携するなどして適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師が来てくれ、利用者の状態の変化や気付き等を報告し、助言を頂いている。夜間も必要時相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合は情報提供に努めている。また、病院関係者との関係作りにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で施設で出来るサービス内容について説明している。利用者や家族に安心して頂けるよう、随時状態等の報告を行うと共に、記録に残し、職員全員で情報を共有し、チームケアを実施している。	入居時の段階で、重度化した場合や終末期のあり方について事業所としての具体的な支援方法を説明し同意を得ている。利用者の状況に変化が見受けられた際には、家族の意向を確認し、医療関係者や職員間で話し合うなどしてチームで支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時についての研修を受けている。夜間時も緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施や災害対策会議に参加し、避難誘導時の留意点や対応方法を話し合っている。	年1回、消防署の協力を得て同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で避難訓練を行っている。すだちくんメールを導入し、災害時に備えている。夜間を想定した呼集訓練も実施している。毎月、定期的に利用者とともに、事業所独自の自主防災訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライドを傷つけることが無いよう補佐しながら、さりげないケアに努めている。また、プライバシーを損ねないように十分配慮している。	日頃から、職員は利用者一人ひとりに寄り添って接している。利用者を人生の先輩として敬意を払い、優しく穏やかに対応している。特に排泄介助時には、プライバシーに配慮し、さりげない声かけを行うなどのケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、利用者の思いや希望が表現できるような関係作りに努め、自らで決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や希望に合わせたケアに心掛けている。食事の摂取時間や内容も個々の希望を取り入れている。また、個々の好きな事が出来る支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時やお出かけ時は、ご自分で好きな服を選ばれている。見守りや支援が必要な方は、職員が思いを大切に希望に沿った支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みの理解に努め、食事が楽しい時間と成るように努めている。また、デザートには季節の果物や皆さんの好物のプリンを積極的に取り入れている。気候の良い時期は、庭で昼食会や野点を実施している。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所で一括準備した食事を事業所に運び込んでいる。昼食のうち週3回は事業所内で担当職員が調理をするようにしている。食事は自分で食べることができるよう配慮し、職員は同じテーブルを囲んでもに食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調に合わせた食事形態で提供している。体調の変化等があった場合はカンファレンスを実施し、摂取可能な形態で提供している。内容については、管理栄養士の指示を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアの実施支援を行っている。また、毎週土曜日に洗浄液につけ、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄サインやパターンをつかみ、トイレ誘導や排泄介助を行っている。自尊心に配慮しながら、個々に合わせたケアに努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。排泄の自立に向け、個々の身体機能に応じたトイレへの誘導を行っている。職員は利用者の表情やしぐさから排泄サインを把握し、さりげなく自尊心に配慮した対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を毎日記録し把握している。出来るだけ自然排便を促すよう、個々に合わせて乳酸菌飲料、植物繊維が多く摂れる食事を提供している。また散歩、リハビリ体操、歩行訓練等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や気分等を伺い、好まれる日や時間帯に入って頂いている。また、入浴が楽しくなるよう柚子湯等も実施している。湯船で歌を唄うことを楽しみにされている方もいる。	職員は、利用者の希望に応じて入浴することができるよう支援している。利用者の身体状況やその日の体調に応じた支援に努めており、重度化した利用者も安心して入浴することができるよう、3名の職員で対応するなどの配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調や状況に応じて、何時でも居室に戻り休憩できるように支援を行っている。夜間寝付けない利用者には、傍らで寄り添ったり、温かい飲み物を提供するなどの配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より薬剤情報について説明をもらい、薬の目的や副作用について確認している。薬の処方変更があった場合は、利用者の状態を観察し、協力医療機関と連携が図れる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や時代背景の理解に努め、個々に力を発揮して頂き、生き甲斐や楽しみのある生活を送って頂くため、大日寺でのお接待や家族同伴昼食会、遠足、ドライブを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ、外食、遠足、買物等には定期的に出かけている。行先については可能な限り利用者の希望を伺い実施している。馴染みの場所やご希望の場所が遠方の場合などはご家族のご協力を得て実現する事が出来ている。	家族の協力を得て昼食会を開催したり、弁当を持参して遠足に出かけたりしている。年間を通じて、季節の行事や花見、買い物、ドライブ等の外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			やまもも 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、小遣いを預かり、利用者の希望により、ご自分で買物されている。また、近所にコーヒーを飲みに行く事を楽しまれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時、家族に電話を掛ける支援を行っている。また、希望者には手紙を書く支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、整理整頓、換気、室温湿度調節に注意を払っている。また、個々を理解し寝具にも注意を払っている。季節感を味わって頂く為、外気に触れる時間を大切にしている。また、日時や職員配置、行事予定を掲示している。壁画や花も季節を大切にしている。	共用空間は清掃が行き届いており、清潔感がある。廊下やフロアの随所にソファや椅子を設置し、壁面には季節感に配慮した飾り付けをしている。利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるよう安らぎの空間の提供に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに様々な椅子を置き、自由に過ごせるように配慮している。何時でも仲良しの方と過ごす事ができる。一人に成りたい時は、自由に居室に戻る事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのある物、写真や日用品が部屋に持ち込まれ、居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、気の合った利用者と過ごせるように工夫している。	入居時の段階で、利用者や家族と相談し、居室に馴染みの家具や備品を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりの好みや生活習慣に配慮した環境を提供し、安心して生活することができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・浴室・トイレ等に手すりを設置している。心身の状態に合わせて環境整備し、混乱や失敗が有った場合は、職員で話し合い、利用者の意欲を損ねることなく自立した生活が維持できる支援を行っている。		